

人物

紹介

「自己決定」する力や 困難を切り開いていく力を



貝塚市立第二中学校

校長 おざき しずえ 尾崎 静江さん

最近、30数年前の教え子から突然、連絡があった。現在、「大学でアジアと日本の関係について、学生に教えている」との声の頼り。当時、中学校の社会科学を教えており、歴史の授業などを通して、「本論はずれて、現代社会のあり方などを熱っぽく語っていた」。その影響を強く受け、後の「進路選択」につながったという。

「教師の願いや思いを素直に受け入れて、自分の職業につなげてくれたことを知り、うれしいと思うと同時に教師の責任の重さを改めて感じました」

多くの子どもとのかかわりのなかで、常に自分自身を戒めてきた。なかでも、3年間担任を受け持った生徒とのかかわりは忘れられない。「家庭の事情でおばあちゃんに育てられていました。健康面、学力面とも課題があり、生活習慣も身につけていませんでした」

3年生になって「進路」の問題が目前に迫っていた。「手に職」をつけさせてあげたいと、職業訓練校で「木工」を学ぶことを目標に定めた。「そのために必要な基本的な学力を身につけさせるために、その生徒以外にも、『気になる生徒』数人を集めて夏休みの間自宅で合宿しました」。勉強しながら、生活習慣も身につけさせるために寝起きを共にした。

生徒はある職業訓練校に入学することができた。しかし、一緒に進学する友だちもいないなかで、一人の寂しさから、授業はエスケープ、そのうちに遊び仲間ができて、問題行動を起こすなど、学業が続かなくなって中退した。その後、仕事も長続きしなかった。

「気持ちの面では、寄り添ってかかわったつもりでした。家庭にも入り込み、おばあちゃんとも仲良しでした。それなのに…」。自分に何が足りなかったのか、悩んだ。

そして、「自己決定」する力、社会のなかで困難を切り開いていく力など、そういう意味での「学力」や「生きる力」を身につけさせてやれなかったことを悔やんだ。後に、そのような力をつけさせようと、修学旅行を見直し、職業体験学習に先進的に取り組んだのはその教訓を活かすためでもあった。

「今、何を思って、何をかかえて生きているのか。そのために教師として何ができるのか。一人ひとりの子どもをしっかり見れる、つかめる。教師の原点だと思います」。常に自分に言い聞かせると同時に、後輩へのメッセージでもある。

そうぞう

6

2004.12*No.11



人権相談

人権相談に関する
質問と回答をご紹介します。

Q 知的障害をもつ子どもが学校を卒業し、就職を希望しています。どこへ相談に行けば自分にあった働き先が見つかるのでしょうか。

A 職業紹介や職業指導を行う機関として、公共職業安定所（ハローワーク）があります。窓口には担当職員や職業相談員がおり、ケースワーカーによる相談が行われています。また、大阪障害者職業センターでは、障害者の職業能力や適正評価

とともに職業リハビリテーション計画を立てたり、就職後のフォローアップを行っています。事業主に対しても雇用管理等に関する相談・助言を行うなど、総合的な支援を実施しています。なお、同センターでは、事業主が障害者を3ヶ月間トライアル雇用として雇い入れることを奨励・支援する障害者雇用機会創出事業も実施しています。

・大阪障害者職業センター
大阪市中央区久太郎町2-4-11
(クラブウエアネックスビル4F)
TEL 06-6261-7005

(財)大阪府人権協会 人権相談窓口
月曜～金曜 10:00～17:00
TEL : 06-6562-4040